

小檜山博（こひやま／はく）



苦工時代（昭和30年頃）

1937年（昭和12年）4月、北海道滝上町に生まれる。1956年（昭和31年）に北海道苫小牧工業高等学校電気科を卒業。北海道新聞社に勤務しながら執筆活動続ける。

1976年（昭和51年）小説「出刃」で北方文芸賞受賞、同作品は第75回芥川賞候補ともなる。また1978年（昭和53年）発表の「イタチ捕り」は第79回直木賞候補になった。1982年（昭和57年）小説「光る女」で泉鏡花文学賞受賞。2003年（平成15年）小説「光る大雪」で純文学を対象とする木山捷平文学賞を受賞する。その後、札幌市民芸術賞、滝上町社会功労賞を受賞。2005年（平成17年）には、北海道文化賞、2009年（平成19年）北海道功労賞を受賞。

2002年（平成14年）より北海道鹿追町にある神田日勝記念館館長を勤めているほか、全国各地における講演会や北海道における様々な文化活動に積極的に寄与している。2009年（平成21年）10月には、自身の生地である滝上町オシラネップに文学碑が建設された。

昭和28年から31年までの3年間、苫小牧工業高等学校で学んだ小檜山博は、自伝的小説「地の音」（昭和59年7月初出）で苫小牧の街を舞台に、常に貧困と空腹を抱えた、作者自身の投影ともいえる主人公の、悲喜こもごもの寮生活をみずみずしく描きました。また、映画「恋するトマト クマインカナバー」（平成17年公開、原作「スクール」）では脚本も手がけ、その活躍の幅を広げています。

平成15年10月、道内外の読者の協力により苫小牧工業高校の跡地である苫小牧市民文化公園に、自身の小説「地の音」を題材に、「地の音よ 樽前山よ わが青春」と刻まれた「小檜山博文学碑」が建てられました。発起人には、三浦光世や故・立松和平などが名を連ねています。

平成18年10月、作家生活30周年を記念して、柏艦舎が全8巻からなる、「小檜山博全集」を出版。また、平成21年10月には、滝上町にある自身の生家にもほど近い場所に小説「風少年」の一文を刻んだ文学碑が建立されました。現在はJR北海道の車内誌「The JR Hokkaido」にエッセイ「人生賛歌」を連載中です。

（文中敬称略）



小説「地の音」
集英社文庫，1991年発行

文芸誌「すばる」
1984年8月号初出



苫小牧市立中央図書館がある市民文化公園内に建てられた文学碑

参考資料：小檜山博全集 第8巻（柏艦舎／刊）
新訂作家・小説家人名事典（日外アソシエーツ／刊）ほか